

家庭学習の指導の手引き

(簡略版)



令和6年4月

佐賀県教育委員会

はじめに

学力向上を図るためには、家庭学習の充実が欠かせません。家庭学習を充実させることは、学力向上につながるだけでなく、「生涯にわたって学び続ける子ども」「自分で自分のことを決められる子ども」を育てることにもつながっていると考えます。

家庭学習の充実のためには、時間の十分な確保はもちろん、質的な改善が必要であると考えます。佐賀県教育委員会では、家庭学習の更なる充実を通して、上記のような子ども達の育成につなげてほしいという願いから「家庭学習の指導の手引き」を作成しました。各学校における家庭学習の指導のための手掛かりとしてご活用ください。

この手引きでは、「家庭学習」を「宿題」と「宿題以外の学習」として捉え、以下のように整理して考えています。

「宿題」は、教員の直接的な指示・管理のもとで行われる家庭学習とし、どの子どもにも一様に課せられる内容を指します。自主学習など、内容や量を指定していなくても、提出を指示している場合も「宿題」と捉えます。

「『宿題』以外の学習」とは、子どもの自主的な学習であり、教員による内容や提出期日の指示がないものとし、少しずつ、「『宿題』以外の学習」への意欲を高めていくことを目指します。

家庭学習

「宿題」

- ・どの子にも一様に課す内容
- ・提出を指示している「自主学習」

「宿題」以外の学習

※塾や通信学習等は、「家庭学習」に含めないこととします。

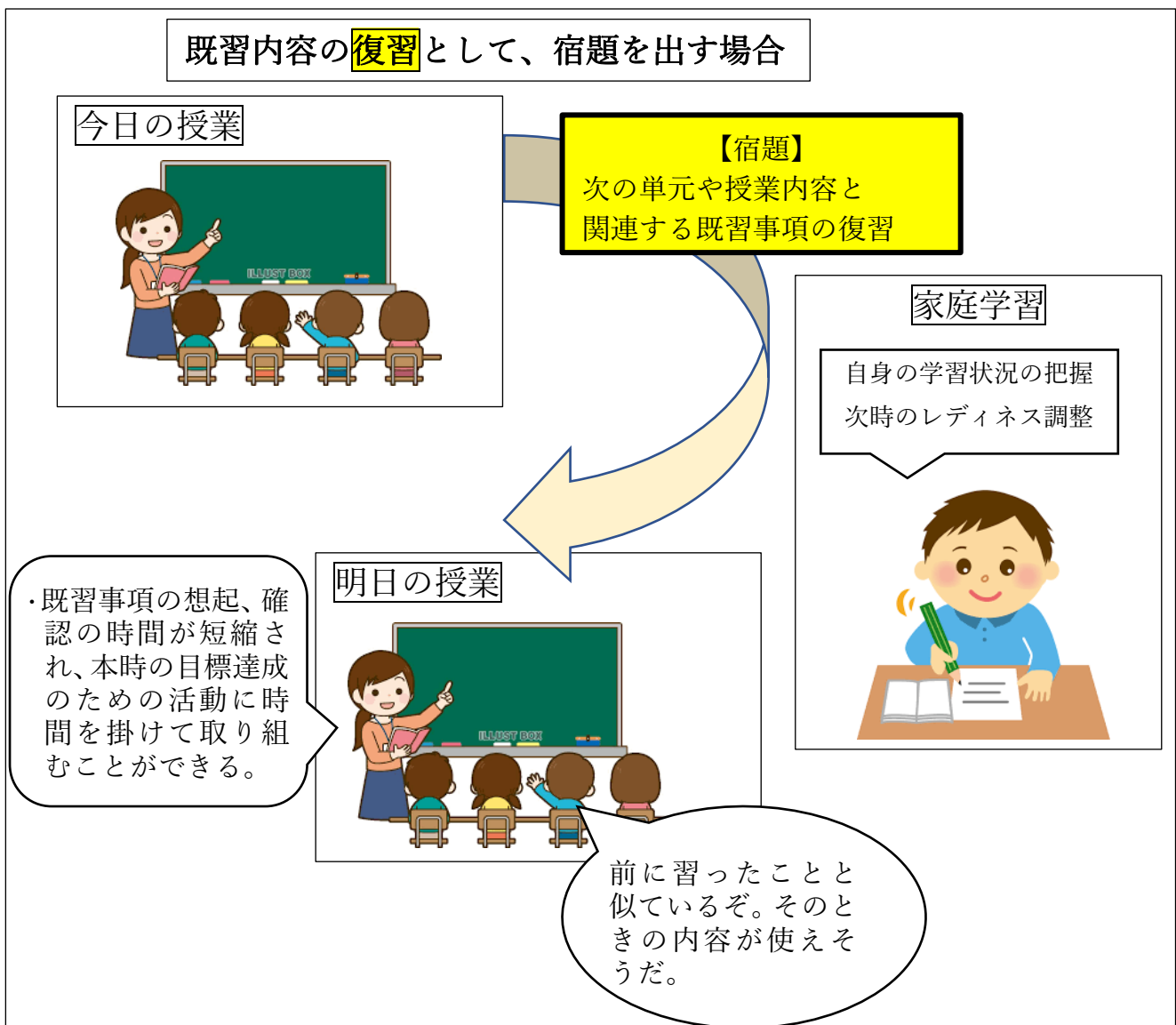
1 家庭学習の目的や意義を伝えましょう

家庭学習の目的や意義について、以下のような内容を、発達の段階に応じて子どもに分かりやすい言葉で伝えましょう。

- ① 学習の習慣や粘り強さが身に付きます。
- ② 学習内容が定着します。
- ③ 夢の実現につながります。

2 授業と家庭学習をつなげましょう

次の授業に家庭学習の内容がどのようにつながるのかを、子ども自身が理解しておくことで、家庭学習をする必然性、家庭学習に取り組む意味や意義が生まれます。また、子どもの家庭や授業での学びが主体的になり、量・質ともに高まっていくことが期待できます。



未習内容の**予習**として、宿題を出す場合

今日の授業



【宿題】

次の単元や授業内容と
関連する課題や視点を与える。

家庭学習

新たな興味や関心
新たな知識
見通し



明日の授業



・子どもが見通しをも
って学習できるよう
になり、思考・判断・
表現をしながら、深
い学びへ導くことが
できる。

宿題でよく分からな
かったところだ。
なるほど、そういう
ことだったのか。

3 「宿題以外の学習」への意欲を高める働き掛けも行いましょう

「予習」や「復習」のやり方を指導することで、「宿題以外の学習」への意欲を高める働き掛けも行いましょう。

【子どもへの指導例】

○予習

これから学ぶ学習内容を教科書や資料で確認して、「難しそうなところ」「授業で特に集中して学びたいところ」を整理して、書き出しておきます。

○復習

授業で「分かったこと」「分からなかったこと」「もっと学びたいこと」を振り返り、その日の家庭学習で取り組む内容を考えます。

子どもに「自由選択型」の宿題の例を示し、子ども自身が内容を選択できるようにすることも、興味・関心を喚起し、学びへの動機付けにつながります。

【自由選択型の宿題の例】

- 興味がある本を選び、感想や自分の考えをノートにまとめる。
- 新聞を読み、要約したり、自分の考えを記述したりする。
- 楽器の練習をし、タブレットで録画して、繰り返し練習する。
- 一緒に料理をつくったり、洗濯をしたりする。

4 一定期間時間を掛けて取り組む宿題を出してみましょう

発達の段階に応じて、数日から一週間といった一定期間時間を掛けて取り組む宿題を出すことで、主体的・計画的に学習に取り組む姿勢を育てることができます。ただし、「宿題の目的」「到達基準」を示すことが重要です。

【子どもへの指導例（社会科）】

単元の学びを生かして、社会的な出来事について考えることができるかどうかを評価します。まず、学習した単元の内容をノートにまとめましょう。教科書の内容だけでなく、資料集の内容も使ってノートにまとめましょう。次に、まとめた内容を基に、今自分が疑問に思っている社会的な出来事を探し、その出来事に対する自分の考えを書きましょう。合格の基準は、①単元で学んだ内容を書いていること。

②自分の考えの根拠を書いていること。

③考えの根拠となる資料を付けていること。

5 子どもの頑張りを、学校でも家庭でも認め、ほめましょう

佐賀県教育の合言葉は「ほめるから、はじめる。はじまる。」。

子どもの家庭学習への意欲は、教員や保護者が掛ける言葉やノートへのコメントによっても高まります。

【言葉かけ、コメント例】

視点① 子どもの努力を認める。

- ・最後の一文字まで丁寧に書いているね。

視点② 子どもの成長を認める。

- ・ノートのまとめ方が上手になってきたね。

視点③ 子どもの工夫を認める

- ・分かりやすく表にまとめていて、すごいね。

視点④ 子どもの発想を認める。

- ・先生（お家の人）も思い付かなかった考えが書いてあるね。

視点⑤ 子どもの学びを広げる。

- ・この考え方に「賛成ですか」「反対ですか」。また理由も言えるかな。

6 目安を示して、子どもと共に学習時間を考えましょう

家庭学習の取組の目安となる時間を子どもに示すことで、生活スケジュールに合わせた計画的な取組につながると思います。学年や発達の段階に応じて、適切だと思われる時間を、子どもと共に考えましょう。

7 家庭学習の方法、力が付くポイントを指導しましょう

家庭学習の指導では、確実に学力を付けるための「やり方の指導」も大切です。家庭学習をどのようにやればよいのか、どのようなことに気を付ければよいのかを発達の段階に応じて子どもに分かりやすい言葉で伝えましょう。

【子どもへの指導例】

- ① 学習の前に、集中して学習ができる環境をつくりましょう。
- ② 漢字や英単語を書くことが「単なる作業」にならないようにしましょう。
- ③ 「分かっていないこと」の確認を行いましょう。
- ④ 学習内容の「まとめ」が、ノートの「写し直し」にならないようにしましょう。

8 生活リズムの中に、家庭学習を位置付けるように働き掛けましょう

家庭学習の習慣化のためには、生活リズムの中に学習の時間を位置付け、できるだけ同じ時間帯に学習することが大切です。ただ、子どもによっては、塾や習い事などがあり、毎日同じ時間帯で学習を行うことが難しい子どももいます。家庭学習を着実にを行うためには、家庭学習計画表を用いて、個々の生活リズムに合わせた家庭学習の予定時間帯を子どもが記入する方法が考えられます。

9 ICTも効果的に活用しましょう

ノート等の「紙媒体」での宿題だけでなく、「ICT」の利点を生かした宿題も出しましょう。

- ① 子どもは、すぐに採点結果が分かる。
- ② 子どもは、繰り返し問題に取り組むことができる。
- ③ 子どもは、自身のニーズに応じた関連した問題に取り組むことができる。
- ④ 子どもは、豊富な情報を短時間で収集することができる。
- ⑤ 子どもは、学んだ成果を動画・写真等、画像で表現することができる。
- ⑥ 子どもは、ソフトを活用し、学んだ成果を多様に表現することができる。
- ⑦ 教員は、子どもの取組・達成状況をすぐに把握することができる。
- ⑧ 教員は、子どものニーズに応じた内容を宿題として出すことができる。

10 教員同士の共通理解・共通の指導を行いましょ

教員一人一人の家庭学習に対する考え方が違い、それぞれがバラバラの取組を行うと、子どもも混乱し、望むような成果を上げることはできません。

○推進する担当を明確にしましょう。

全教員が一体となって組織的に取り組む体制を整える必要があります。家庭学習を推進する担当教員や担当チームを分掌事務として組織に位置付けることが大切です。

○定期的に振り返りましょう。

子どもに出している宿題が、本当に子どもの学力向上につながっているのか、負担になっていないか、協議をしたり、見直したりしましょう。特に、学級担任が出している宿題に加え、教科担当教員から出している宿題がある場合は、量や提出日などをお互いに伝え合い、子どもの過度な負担にならないように研究主任や学力向上対策コーディネーター等を中心に調整を行いましょ。

11 子どもとの共通理解を図りましょう

○ガイダンスの時間を取りましょう。

年度当初の学年のオリエンテーションの時間などで、家庭学習の取り組み方について確認する時間を設定し、家庭学習の目的や内容、時間等について、子どもへの説明を行いましょよう。

12 保護者との共通理解を図りましょう

○懇談会、家庭訪問、PTA（育友会）研修の場で説明等を行いましょよう。

年度当初の学級懇談会で、家庭学習の目的や内容、時間等について説明したり、情報交換のテーマに設定したりすることも考えられます。

○「保護者用リーフレット」の活用

懇談会や家庭訪問の折に、「保護者用リーフレット（右図）」を基に、次のようなことを確認しましょよう。

- ・基本的な生活リズムを整える（早寝・早起き・朝ごはん）
- ・学習環境を整える。携帯電話やゲームの利用ルールを決める。
- ・頑張りをみとめ、ほめる、共感する。

家庭学習の手引き
保護者用リーフレット
～子どものやる気を高め、主体性を育むために～
佐賀県教育委員会 “ほめるから、はじめる。はじまる。”
(佐賀県教育の合言葉)

家庭学習の習慣化で、子どもたちの「学ぶ力」を育てましょよう!

「学ぶ力」って、どんな力ですか?

| | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○意欲や興味・関心 ○挑戦する気持ち ○粘り強く取り組む姿勢 など 学びに向かう意欲や姿勢 | + | <ul style="list-style-type: none"> ○自分で内容や時間を決める ○自分で内容の軽重を判断する ○自分で取り組む順序を決める など 学び方 |
|---|---|--|

これらは、子どもたちにとって、将来にわたり、自分で考え、判断して、課題を解決したり、いろいろなことに積極的に取り組んだりするために必要な力です。

「学ぶ力」を育てるためには、どんなことが必要ですか?

ご家庭で大切にもらいたいことは、クローバーの葉に示した4つです。
効果のある「声かけ」や「関わり方」を、『家庭学習の習慣化4つのススメ』として整理しました。
ぜひ、ご家庭でも取り組んでみてください。

くわしいことは、右のQRコード、または、インターネットの検索画面で「佐賀県教育委員会 学力向上に向けた取組」を検索してましょよう。

図 「家庭学習の手引き」
(保護者用リーフレット)



【参考・引用文献】

- ・佐賀県教育委員会 『端末活用ステップアップシート』 令和4年2月
<https://www.saga-high-school.jp/e-connect/>
- ・高知県教育委員会西部教育事務所 『家庭学習アイデアBOOK』 平成29年
<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/ideabook/>
- ・栃木県教育委員会 『家庭学習のすすめ』 平成24年
https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/leaflet/kateigakusyuu_h23/index.htm
- ・田中 博之編著 『アクティブ・ラーニングが絶対成功する！ 小・中学校の家庭学習アイデアブック』 2017年
明治図書